善眞

名古屋
長元坊

臘梅

入江の白ふ　風左坊

海雲船

廊内連

菊さそふ道の歩行や花の宿　井く

芳章やきのふ嘯く二四の弦　羽左

ふたて降る日々に押る　居三

おもひ出と心のかゝ猫のしゝ　呂朝

五梅やうつり炉ふち明るし　雲母

野に行くく思ひ出のうすきより　青二

夕日さす窓や胡蝶の影ちらと　雲冷

葉の花は盛なりて寝入り　文友

竜口下

10

新町せる程なる窓や　桃の花　松扉

姉ハしとしとうつる蝶の眺りる　玉尼

冨士連

さらふて柳の影やあるる月　玉芝

梅うせやあて泳ぎあてなるめ　梧友

いう年 野を春めさしし若葉哉　見二

菜の花や月は東に日は西に　芦ゝ

貫四連

春雨や木枯おもく音なく　宮　兎起

霞ゆゑ踏迷ふ道や春乃雨　作何

雨風のはげしき事はしらるゝ　如松

須臾嵐を掃て一尺雪山路哉　其町

20

ちらゝ琵琶ときゝ夜を猶月　梁哉

旅ゆきの吟

川西

廣沼や芦の芽ぐむ朝の月　蓑行

柳ふる雨もうしなるもしし　和考

湯炭や塩屋北ゝの梦ぬるも　雨柳

家の雲眠る夜もなる月　一笑

燕や刈りくと矢切のみち　五六

天馬連

清解や根竜の新北郭とめ　大甫

浪の音こゝ日ぐ芦の角　仙桜

さんぽや廣き郭に咲寄ると　吐風

子州や浦の苔屋北軒ふさく　雷海

巖燈〳〵山路や青の人通り　山歩

白王連

曙をまち海の〳〵まつかな　臺石

雲下日を言し合ふ八幡小原　玉江

扶桑ほと摘く扇よ茅葉ゑ　甫曉

拾ふ〳〵や石花売ふ行き須磨町　指竜

山ちや本ゑ〳〵鳴る其外雨　鼎甚

明ゑや地守う曲ふ〳〵ふ蔵　車麦

髮甲〳〵居れ海ふも吹ふ汐干ふ　九志

はがもちん玉〳〵蛙う分　井蛙

草青く野中のうれやうみとめ　素々

日ぬくうして雲と挿す乃さくら　舟司

廣井連

晴天や乾坤の花むらら　加卜

青くと橘葉うく春れ白ふ　如又

菓子煮け堤防ぬるや春の雪　楓下

月美連

梅さくや宕れ反古の月にうり　黎角

山寺や俠のうび掛く雲乃雨　陽木

蝶くや野何の牛とぬうとい連　鷺行

山吹や蝶を吹ちらす岸へよ　旬甫

芝草やはれ風のあらましを　左梅

梅ゝ香や風の使りせなをらう　京石

土田連

東起連

吹ぬけ吹ぬけて柳ぬる　名百

陽炎や老揚てなを簾ゆも　柳糸

素面や去年の水屋せぬを洗し　士起

雲れ神去て尼去れすたる　芦之

うぐいすや宮へ朔日のてらと　宮人

多年の行色成就しまさん

揚雲背心し空も晴さくるよ　指竜

入おもてさん岸の柳ぶり　千市

乾口下

岡崎連

夢やさま柳丹も宮一トあり　三市

春北日やちとく遊き父母も　麦雨

燕や宮ちすち宮町をびき　里逕

60

ちさ思ふ風ふかすを柳ふか　思朗

なつかしき春田小ら　吏仙

月下に小夕田の花男しらり　路十

雲や此地の庭てらす秋音　里虫

蛍外や牛も紅人を羅てぼん　百樹

短冊　狸宝

掬すや此宮のさし流

摘菜茶門にさくも又　扶　風尤坊

うしろ髪に果報な世を言ふて　裏汀

月はうしろ髪影の苦　加卜

弦月の落ちゆくも年々へゆや　玉芝

素名天ゆる悦く秋の夜　見二

小夜ふかく月降をくに入り　玉尼

三十棒の彼方中　大甫

孤雲獨り去て新なる所　山芳

月清き夜ごとに猶撫ずるより　仙梧

完全と花の小盃　梁計

とかく柳の影　楓下

つもる詩料の好書画社会　作河

ちと業ならあの掛莫　如杯

宮の月人一人をもてなすとて　文友

雲も香もたゝふる雲北陸哉　雪冷

宇陀の奥海辺を生海苔　吉六

さゝぐる腰の大燈こちゝ　雨柳

第一流もまもるる月の秋仕事　梧友

20

名ウ

忘も涼しけり蕉の葉の新　鷺仆

ひとりたゝる滝本坊と涼のみち　吐凡

虫おさへ母をうゝ蚊帳哉　蕃海

一日くゝ花作ふさつみ　雲舟

そめ風雅れ二夏のうゝ　青ふ

短冊

[illegible]

春雨や初とし連しの居くらべ　鷺公

ぬるきが蕎麦汁小海苔　風九坊

世の中をさえぎるひのもくれ　鶴司

ウ

湖水の月うつすかな　甫曉

うも高いの鶯の鳴かさ多し　玉江

名月に伊吹の雲の秋　指竜

さ一時くらう帰入の変い切り　肌起

後去夫ともかーなるぞ　素くり

酒ゝ酒飲むとて子宮に腹でなし　坊

みちゝる紫ゝ後もごんゝ　乙

咲ゝ花と南佛の神輿待ゝ立　曉

若男鳥のあんやしい人　司

二

矢物の抜身いかゝ遠かゝり　竜

日ゝ賀ゝ仏ゝ和多の入舎　江

れんて金剛羅漢北ゝ後　素

浪居の弟ゝ引き後　楚

ほゝ冬ゝこゝ一を泥ゝ　乙

壬ゝ者ゝ文も中ゝ　坊

[illegible]の[illegible]自の[illegible]の　竜

おもへとも[illegible]男[illegible]　暁

たゝこの[illegible]の[illegible]たゝとの[illegible]　江

坂[illegible]の二十五町め　司

白妙の雪[illegible]の[illegible]　芝

[illegible]　素

安永八巳亥春

追加

信仮田連中

笑ふまを待てたなるの葉成　芳帆

ふるさとや雪ぬきづしく　巴朝

学や併さしたををさせ　棠里

菜を作るは具せるけなる　橘成如行

茶の價まつさ一盃く様成　虎麟

お自好事や姉ふる岩の夕暮　左語

柳さくや在所乃奈良　遠　梅士

学や今くみ沓ひげく　掉頭　花行

苗代や水ふさ八月ぬきの孔ど　蓬洲